

私は、小さい頃からよく風邪を引いていた。加えて小児喘息を患っているため、病院に行く機会がとて多かった。病院に行くたびに疑問に思っていたことがある。なぜ大人はお金を払っているのに、子どもは払わなくていいのだろう、ということだ。私は、親が病院に連れていってくれたとき、病院でも薬局で薬をもらうときも、代金を払っているところをほとんど見たことがなかった。不思議に思い母に聞いてみると、子どもの医療費は税金で賄われていることを教えてもらった。今回改めて税について考えたとき、子どもの医療費についてどのような制度で賄われているのか、何歳まで保証してくれるのかなど様々な疑問が浮かんだため、調べてみた。

子どもの医療費は、「子ども医療費助成制度」という、市町村や都道府県が税金を使ってサポートしてくれる制度で賄われている。つまり、本来莫大なお金がかかる治療費を、ほとんど税金で賄っているということだ。だから、子どもたちはみんな適切な治療を受けることができ、健康に生活することができているのだ。この制度は、地域ごとで無料になることもあれば、負担してくれる金額が決まっているところもあるのだそうだ。

では、その税金はどこから出ているのだろう。それはやはり、私たちが普段払っている消費税や、大人たちが毎月払っている住民税や所得税などの数知れない税金だ。税金は、「国税」と「地方税」に分けられ、およそ 50 種類もあるそうだ。今の私たちに直接関係があるのは消費税だが、大人になれば常に税金と向き合わなければならないのだろう。

今回は子どもの医療費について調べたが、他にも私たちが普段使っている教科書や学校の机や椅子、部活道具など、教育にも様々なところで税金が使われていることを知った。誰でも質の高い教育を受けられるように、税金は集められ使われていることがわかり、私たちもそれに応えなければならないと思った。勉強が嫌だと思うことは数え切れないが、良い環境で教育を受けさせてもらっていることに感謝し、将来社会に貢献できる大人になれるように勉強していきたい。世の中には税金をなくしてほしいという声が多いように感じるが、もし税金という制度がなくなれば、怪我や病気のたびに莫大なお金がかかる治療費がかかり治療を受けれない人も出てくるだろうし、誰しも同じように教育を受けることも難しくなるだろう。そのようなことがないように、これからも税金を払っていくことが必要なのだと思う。